



千八百七十六年
長崎貿易報告



3419



114
3 3142
15 M

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



長崎貿易報告書

領事館ニ於テ
千八百七十七年第四月三十日在長崎英國

余謹テ千八百七十六年間本港ノ貿易及ヒ船隻
ノ出入ニ関スル報告書ヲ編成シ茲ニ左ノ統計
表ヲ併セテ閣下ニ進呈スルノ榮ヲ有ス

第一英國及ヒ其他ノ外國并日本ノ開
港場ヨリノ輸入表

第二英國及ヒ其他ノ外國并日本ノ開
港場ヘノ輸出表

第三貨幣輸出入表

第四外國船隻出入表

第五輸出入稅并船稅表

第六外國商社并居留人負表

本港貿易ノ全額ハ之ヲ前年ニ比較スルニ六拾六万五千五百廿一弗ノ減差ヲ生ス茲ニ其概要ヲ示ス下即チ左ノ如シ

	千八百七十五年	千八百七十六年
輸入	一、五二五、〇九〇弗	一、〇六三、一九九弗
輸出	二、一五九、三〇三	一、九五九、六七三

通計	三、六八四、三九三	三、〇二二、八七二
----	-----------	-----------

余ハ左ニ意見ヲ開陳シ務メテ本港貿易ノ衰減スル所以ヲ詳明セント欲ス

○輸入ノ部

昨年間本港ノ輸入貿易ニ於ケル之ヲ前年ニ比較スルニ又再々其減差ヲ生スルヲ見ル蓋其然ル所以ノ理タル之ヲ解釋スルハ易々タルニ非スト蓋氏他ノ開港場ニ於ケルモ亦均シク輸入ノ衰減スルニ至レハ未タ全ク本港地形ノ然ラシムル所ナリトハ断言ス可キサル也

当年ノ輸入全額ハ他ノ開港場ヨリ輸入スル者
ヲ併セテ百〇六万三千百九十九弗十ルカ故ニ
之ヲ千八百七十五年ノ輸入額百五十二万五千
〇九十弗ニ比較スレハ四十六万千八百九十壹
弗ノ減差ヲ生ス殊ニ織物類ノ輸入ニ
至テハ減差ノ最モ著ルシキ者ナリ何トナレハ千
八百七十五年ノ輸入額ハ四十四万〇二百八十
八弗ナリシカ昨年ニ至テ僅ニ十六万九千四百
八十九弗ニ減シタレハ也然リト虽氏綿布ノ
輸入ノ如キハ千八百七十五年ニ減スルノ度ハ

其昨年ニ減スルノ度ヨリ更ニ甚シキ故ニ今
此比例ヲ推シテ将来ヲ測レハ外國産ノ綿布ハ
當ニ其需求ノ從前ヨリ減却スルノミナラス亦
將々ニ本縣地内之ヲ使用スル者ナキニ至ラン
トスルノ兆ナリト云ハサル可ラス
余ハ一兩年前ニ於テ世人カ頻リニ靡消ノ度ヲ
測テス漫ニ夥多ノ外産ヲ輸入シ之ヲ日本商賈
ニ賣却セルカ故ニ該貨ハ内地ニ堆積シテ售銷
セス今猶其需用ニ充ルアリト雖々スルヲ聞キ
稍之ヲ信セサルニ非ス然リト虽氏當時ニ於

テ其考説、当否如何ニ拍ハラス余ハ今日ニ至
ル迄尚其剩貨ノ存在スルヲ見サル也
始メ日本政府カ兵庫大坂ノ兩港ヲ開キ互市ヲ
外國ニ通スルニ當テヤ此地ノ商賈等ハ本港貿
易ノ衰減スル所以ハ全ク其利ヲ彼ノ二港ニ分
与スルカ為メナリトセリ此説ヤ當時ニ在テハ
固ヨリ理由ナシトセス而シテ若シ彼ノ説ヲ所
ノ如ク兵庫港ノ貿易ヲシテ恒ニ盛昌繁榮ナラ
シメハ本港ノ恒ニ衰憊スルハ寔ニ其所ナリト
虽氏之ニ及シテ今 兵庫港ノ貿易ハ日々ニ衰運

ニ就クモ本地ノ景状ニ至テ曾テ其觀ヲ改メサル
ハ抑々怪ムヘキニ非スヤ
文レ日本國內ニ於テ布帛ノ製造ニ於ケル其固有
ノ産品ヲ除クノ外ハ未タ曾テ外製ノ織物ニ競
争スルニ足ルヘキ者ヲ製出スルニ至ラス又人
民ノ景状ニ就テ説カハ凶年飢歲ノ社會ノ下流
ニ居ル者ヲシテ衣服ニ供スルノ資金ニ乏シカ
ラシムルニ至ラス然リト虽氏独リ地租ノ過重
ナルノミナラス殊ニ彼米納ヲ廢シテ金納ノ制
ヲ行フヤ民間ノ疾苦ヲ告ル此時ヨリ甚シキハ

無シ此ニ依テ之ヲ觀ルニ其貿易ノ著ルシク衰減
スル所以ハ此原因ヲ棄テ、將夕何カニ歸セシ
ヤ
輸入貿易ノ衰減スルヤ無色綿布ヲ以テ第一ト
シ交織物之ニ次ク而曰テ彼ノ天鵝絨絨寒冷紗ノ
如キ下等社會ノ需用多カラサル者ニ於テ亦夕
著ルシク減却スルヲ見ル蓋本地近傍ニ住スル人
民ノ景状ニ於ケル固ヨリ日用必須ノ資産ニ乏
カラズ或ハ豐富富ノ生計ヲ営ム者ナキニ非スト
虽氏抑又収益ノ餘裕ヲ流用シテ得ル所ノ利々

ル實ニ僅々タレハ彼ノ外産ノ購入ニ充ツル資
金ハ一擲シテ盡キサルヲ得サルナリ
夫社會ノ進捗ヲ計ルハ民間ニ資産ヲ蓄フルヨ
リ先ナルハ無シ而シテ之ナキハ唯夕政府ノ施
政相反スルニ依ル、ニ茲ニ其一例ヲ掲ケシニ
商業ヲ営ムノ人民ト直接ニ外人ニ交接シテ利
益ヲ享有スル者トヲ以テ内地人民内地人民ハ
租稅ヲ納ムル多シテ政府ノ保護ヲ享クル少シ
ニ比較スルニ其數ノ僅々タル恰モ晨星ヲ見ル
カ如シ故ニ本島内九州指スルニ於テ徵收スル所ノ租

税ハ之ヲ此地長寄ヲ指スルニ散スル少シテ間接ニ内地
人民ニ復帰スルヤ甚タ多シ

日本政府力中央集権ノ政ヲ施行スルマ独リ本
港貿易ノ衰減スルノミナラス其政府ニ接近ス
ルノ港口ト虽凡亦均ニク影響スル所ナキニ非
ス是レ徵租ノ過重ナルヤカ為メニ民間剩ス所
ノ資産ヲ吸盡シ為メニ國內ノ生産カヲ弱ム
レハナリ

○輸出之部

夫輸出ハ衰減ノ點ニ傾向スル無キニ非ナル

一八七六 長崎貿易

モ未タ以テ輸入減差ノ甚シキカ如クナラ
ス

過ル三年間ニ於テ海外諸國ニ輸出セル貨物ノ

全額ハ他ノ開港場ニ再出スル者ヲ併セ算スルニ即

チ左ノ如クナルヲ見ル

千八百七十四年	二、六九二、八七五弗
千八百七十五年	二、一五九、三〇三弗
千八百七十六年	一、九五九、六七三弗

斯ノ如クナル故ニ昨年ノ輸出總額ハ前年ノ輸
出額ノ其前年〔即チ千八百七十四年〕ヨリ減スル

一五十三万三千五百七十二弗十ル者ニ比スレ
ハ僅ニ十九万九千六百三十弗ヲ減シ之ヲ千八
百七十四年ニ比スレハ其三分一即チ七十三万
三千二百〇二弗ヲ減シタル也

茶葉

該品ハ其數量ニ於テコソリ大約千三百〇〇ク
輸出ヲ前年ニ増加スルヲ得タルモ其價直ニ至
テハ却テ十三万八千百十六弗ヲ減却スルニ及
ヘリ是レ各地ニ於テ茶葉ノ價格ノ著ルク低減
スルカ為メ也

今本港ノ近傍ニ於テ葉茶ヲ産出スルノ夥シ
キ實ニ之ヲ輸出スルノ益々多キヲ加フルノ比ニ
非ス而シテ此等ハ概子横濱兵庫ニ輸送スル
者ナリ蓋シ其品質タル恰モ他ノ茶葉ニ混和
スルニ適スルカ故ニ彼ノ二港ニ於テハ自ラ其市價
騰貴スルニ至レハ也然リト虽昨午ニ至リ其
價格ノ低減スル更ニ一層ノ甚シキニ及ヘハ他
日之ヲ産出スルノ量モ亦應ニ減却スルニ至ル
ヘキ也
當時本港ニ於テ賣却シタル茶葉ニ就キ其尋常

者ヲ除クノ外ハ日本ノ製茶者及ヒ高賣ニ利
潤ヲ与フル無ク却テ非常ノ損セヲ招クニ至レリ
烟草

該品ノ輸出ハ千八百七十五年ニ於テハ一万三千
二百四十貫「ピクル」ナリシカ昨年ニ至テハ三千
四百五十「ピクル」ニ減却シタリ蓋千八百七十
五年ニ於テ其價直ノ低廉ナルヤ幾分カ其産出
ノ量ヲ減シタルニ相違ナシト虽千八百七十
六年ノ暮ニ及ヒ外人ノ倉庫内ニ在テ海外ニ航
スル船舶ノ到ルヲ待ツ者尚五六千「ピクル」下テ

サルヲ以テ其千八百七十六年ニ於テ輸出ノ減
却スルハ憶フニ斯レ^カ為メノミ且夫烟草ノ
栽培ニ於ケル其地^カヲ耗盡スルヤ他ノ植物ノ
比ニ非ス故ニ之ヲ耕種スルノ區域ヲシテ一層廣
濶ナラシムルニ非サルヨリハ漸次其産出高ヲ
減却スルニ至ルヘシ況ニヤ之ヲ栽培スル一區ノ
地ニ止レハ縱令ニ隔年ニシテ之ヲ殖スルモ未
タ其繁茂スルヲ見サルニ於テヤ將タ昨年
ニ於テハ烟草ノ供給甚タ少ク自ラ倫敦ノ市
價ヲ騰貴シタルカ故ニ本年ニ至テハ必ス其

産出ノ額ヲ增多スヘキ也
木蠟

千八百七十五年間木蠟ノ輸出高ハ九千四百拾壹
トクニナリシカ千八百七十六年ニ及テ四千五百八
十トクニ減却シタルカ故ニ昨年ノ輸出ハ僅ニ
前年ノ半額ニ過キヤル也又レ斯ノ如ク昨
年ノ輸出ニ至テ非常ノ減差ヲ生スルハ何
ソヤ蓋シ倫敦市場ニ於テ其價格ノ著ルシク
低減シ之ヲ二三年前ノ市價ニ比スレハ殆シ
ト其半額ヲ減シタルカ故ナリ此ニ依テ之ヲ觀レハ

今日本ノ木蠟ヲ賣却シテ得ル所ノ利ハ
以テ其製造費用ヲ償フニ足ラサルヘシ而シテ本
港近傍ニ於テハ今尚穂實ノ枝上ニ在テ自ラ腐
朽スルヲ見ル

樟腦

樟腦ノ輸出ハ千八百七十五年ニ於テハ二千九百
〇六トクニナリシカ昨年ニ至テ四千二百〇三トクニ
ニ増加シタルカ故ニ其差異ハ千貳百九十七トク
クニナリトス將々其價直ノ昂低ニ於ケル概子
臺灣産品ノ供給ノ過不及ニ從フテ以テ豫メ

其市場ノ状態ヲ詳スルニ非サレハ以テ之ヲ陳述スルヲ得サル也

本港輸出ノ樟腦ハ支那ニ送ル者多シトス是レ独リ該邦人民力之ヲ貴重スルノミナラス其價直タル却テ臺灣産品ヨリ貴ケレハナリ而シテ其歐洲ニ輸出スル者ハ必ス先ツ支那ニ送ルヲ恒トス是レ他ナシ其品種タル香氣殊ニ盛ニシテ他ノ貨物ヲ害スルニ至ルヲ以テ唯其損害ヲ兼ケサル者ニ能ク之ト共ニ船内ニ搭載スルヲ得ヘケレハ也

米穀

千八百七十五年ノ輸出高ハ僅ニ五千六百九十七「ロ」ク「ル」ナリシカ昨年ニ至テ二万八千四百〇三「ロ」ク「ル」ニ増加シタルカ故ニ其輸出増加ノ差ハ二万二千七百〇六「ロ」ク「ル」ナリ而シテ之ヲ輸出スルハ悉ク日本政府ノ命スル所ナリ

乾魚

乾魚ノ輸出ハ從來巨万ノ金額ニ上リシカ今ニ至テ其價ヲ減セサルヲ猶統計表ニ示スカ如シ然リト虽モ該品ノ貿易ハ支那人ノ専有スル所

ナルカ故ニ茲ニ其詳細ヲ報道スルニ由ナシ
石炭

石炭ノ輸出ハ千八百七十五年ニ於テハ十六万四千
百四十噸ナリシカ昨年ニ至テ十五万〇八百四十一
噸ニ減シ其減差ハ一万三千二百九十九噸ノ甚シキ
ニ至ル是ハ高島炭坑内火ヲ發スル亦随テ其出
炭ノ量ヲ減シタルニ依ルノミ
高島炭坑

第一月一日乃至第六月三十日迄ノ出炭高

七万九千四百十四噸

第七月一日乃至第十二月三十一日迄ノ出

炭高

貳万二千四百六十二噸

通計

十万千八百七十六噸

昨年六月間ノ出炭高ハ休日ヲ除キ毎日ノ平均大
約六百五十噸ナリシカ第七月下旬ニ至リ坑内自
火ヲ發シ之ヲ撲滅スルノ効ナク延テ第八月
十一日ニ及ヒ坑内ノ四分三ハ水ヲ以テ充溢セル
カ故ニ終ニ其業ヲ廢スルニ至レリ然ルニ英國
ニ新調セル汲水器ハ第十二月ヲ以テ到着シ今

マ坑内ノ水ヲ汲出スルニ頻繁タルカ故第五六月ノ交ニ至テハ全ク之ヲ汲盡シ以テ旧業ニ復スルヲ得ヘキ也

高島炭坑ノ傍ニ九「ヒート」ノ炭脈アリ従来日本ノ掘炭法ニ從テ開鑿セルモ適當ノ汲水器ニ之シキカ為メニ其業ヲ廢シタリシカ迄頃旧業ヲ回復スルノ峯アリ若シ此峯ヲシテ成功ナラシメハ数月ヲ閱セサルニ其出炭ハ毎日二百噸宛ヲ増加スルニ至ルヘシ

高島ノ石炭ハ魯西、佛蘭西、合衆國、魯西亞、日耳曼諸

國ノ軍艦カ之ヲ使用スルノミナラス支那ヨリ倫敦ニ航スル汽船ノ新茶ヲ搭載シテ其駛行ノ快速ヲ要スル所ハ必ス此石炭ヲ用ルカ故ニ終ニ蒸氣用石炭ノ名ヲ得タリ將々千八百七十六年間高島石炭ノ船積及ヒ賣却高ハ即チ九ノ如シ

上海へ向ケ

一万六千八百四十八噸

香港へ向ケ

一万九千五百十七噸

横濱へ向ケ

二千六百七十二噸

天津へ向ケ

四千七百四十噸

馬尼刺へ向ケ

八百二十五噸

福州へ向ケ

八百五十五噸

長崎ニ於テ賣却高

四万六千六百四十七噸

通計

九万二千〇四十九噸

端島炭坑

葉島炭坑

葉島炭坑ハ原来日本人民ノ私有ニ属セシカ昨年

ニ至リ一層其業ヲ盛大ニシタルヲ以テ本年ノ

第三月間ヲ算スルモ其出炭高ハ二千噸餘ノ

多キニ及ヘリ此炭坑ハ歐洲ノ機械師、礦山師

等ノ監視スル所ニシテ近頃其出炭高ノ著ル

ク増加スルニ至リシハ恰モ彼機械師等カ預

メ期スル所ニ皆カス斯之ヲ日本國內人民ノ私

有ニ属シ外國製ノ機械ヲ使用シテ開鑿スル第二

ノ炭坑トス

本島ハ北緯二十八度ヨリ三十五度ニ至ルノ間

高島ノ西南三英里ノ直角ニ於テ西南ノ方位ニ傾

向スル四島中ノ一タリ蓋此四島ハ其始ノ野茂半

島ト同時ニ突起セルカ如ク然リ而シテ野茂半

島ハ沈渣様ノ巖石ノ間ニ突出シ曾テ炭質ア

ルヲ見サルモ彼ノ四島ノ如キハ海面ヲ抜ク

ト甚タ高キヲ以テ地下ノ炭脈ハ自ラ海水ト平

準ナルニ至ル

彼ノ四島中、最モ大ナル者即チ高島ニ於テハ炭脈処々ニ隱見シ其重層ハ海面ヨリ高キト入
「ト」ニ及フ蓋此炭脈ハ起業ノ時ヨリ鑿開ス
ル所ニシテ其高島石炭ノ名ヲ得シハ此坑ヨリ
出ル者ヲ以テ始トス又々此炭脈ハ端島ニ連
ヒテ海面ニ平準スル処ニ顯ハレ方今專ラ開鑿
スル所ソ者タリ

野茂半島ヨリ松島平戸ニ至ル海底ニハ必ス一
大炭脈アルヘシトノ考説ハ全ク虚妄ニ非サル

カ如シ若シ果シテ此炭脈ニ入込ムヘキノ便
法アリテ且危難ナカラシメハ其石炭ヲ出
スヤ蓋^シ尠少ニ非サルヘシ今ヤ高島ニ於テハ
海中ノ炭坑ニ入込ムヘキノ便法ヲ查出シ業
既ニ其功ヲ奏シタルノミナラス實驗上ヨリ
シテ此數島ノ疆界ヲ過クル片ハ彼ノ炭脈平準
ナルヲ發明シタルカ故ニ若シ海中ノ淺処ヨ
リ之ニ達スルヲ得セシメハ其業タル蓋容易
ニシテ且經費ヲ要スルヲ多カラサルヘシ
將タ葉島石炭ノ賣却ニ至テハ英國商社ノ代

理者ニ於テ之ヲ周旋セリ

三池炭坑

三池炭坑ハ島原江ノ東筑後ノ南東角ニ在テ長
縣内ニ於ケル炭坑中ノ一タリ其幅負ハ東西四
里ニ跨リ其南北ハ僅ニ數里ノ長サニ過キス此
炭坑ハ東ニ於テ花崗石ノ丘陵ニ向テ突起
シ漸ク西シテ島原江ノ海底ニ達シ北ニ於
テハ又々粘土質ノ「スレート」石ヲ以テ成レル
丘陵ニ向テ突起ス而シテ其間最良ナル燃火質ノ
炭脈二層アリ其上部ニ在ル者ハ厚サ六「ヒート」

以上ニ過キ其下部ナル者ハ大約五「ヒート」ニ
シテ厚サ六「ヒート」ノ石ヲ以テ上下ノ炭脈ヲ隔
離ス今之ヲ細説スルニ上部ノ炭脈ハ其厚六「ヒ
ート」乃至十一「ヒート」ニシテ純精ノ石炭ヲ含有
シ絶テ燃土質ノ炭殻アル無ク其次ニ六「ヒート」
ノ石アリ而シテ其下部ナル者ハ厚五「ヒート」
ニシテ燃土質ノ炭殻アルヲ見ル且此炭脈ノ
方位ハ少シク西南ニ向テ傾斜ス
此炭坑ハ大約二百年以降開鑿スル者ニシテ
天然ノ空氣ニ依リ高ヨリ漸ク低ニ及ホシ其石

炭ヲ運出スル^{之ヲ}籃ニ盛リ以テ擔夫ニ負荷セ
シム而シテ今ヤ坑脈ノ開堀スル所ハ殆シト
半英里ニ達シ其高处ノ門戸ヨリ坑底ニ至ル
ノ距離タル頗ル遠遠ナルカ故ニ其内部ノ水ヲ汲
出シ或ハ石炭ヲ搬運シ空氣ヲ流通セシメシニ
ハ歐洲ノ掘礦法ノ必須ナルニ至レリ然ルニ
此炭坑ハ原来政府ノ所有ニ屬シ歐洲ノ新法
ニ從テ掘炭ノ方法ヲ改更セシト欲シ英國
ノ礦山器械師ナル「ホット」氏ヲ聘シ今ヤ專
ラ其業ニ從事セリ將夕昨年間に此坑ノ出炭

高ハ毎日ノ平均概子二百噸ナリシカ今日ニ
至ル迄其量ヲ減スル無ク而シテ其炭質タル
實ニ最良ノ者タリ
歐洲ノ新法ニ據テ掘炭スルヤ既ニ斯ノ如クナ
ルカ故ニ其將來ノ經費ヲ減却スル亦將ニ尠少ニ
非サルヘシ而シテ此新掘炭法ハ政府ノ力^カ能ク之
ヲ適用スルヲ得ヘクシテ決シテ人民ノ企及
ヲ可ラサル者タリ
船隻ノ出入
外國船隻ノ出入ハ著ルキ變換ナキカ故ニ茲ニ

登載スル所モ亦僅ニ二三件ニ過キサル也蓋シ
入港船ノ隻數ハ二百七十七艘ニシテ十八万〇二
百四十三噸ヲ為スカ故ニ之ヲ前年ニ比較スル片
ハ其數ハ十九艘ヲ減シ其積高ハ九万六千七百七
十二噸ヲ減スルニ至ル是レハ亞墨利加郵船ヲ
三菱會社ニ賣却セルカ為メ也

英國船隻ノ出入ハ千八百七十五年ニ於テ八百五十
艘ニシテ六万七千七百九十一噸ナリシカ昨年
ニ至テ百三十二艘ト八万〇二百四十三噸ニ及ヒシ
カ故ニ其數ハ十二艘ヲ増加シ其積高ハ一万二

千四百五十二噸ヲ増加シタル也

貨物ヲ搭シテ直接ニ英國ニ向ヒ開帆シタル三艘
ノ英船ハ其積高ノ總計二千六百四十四噸ヲ為シ
又直接ニ英國ヨリ入進シタル他ノ二艘ハ其總
計千百八十二噸ヲ為セリ

亞墨利加船隻ノ出入ハ郵便汽船ヲ除キハ四十三艘
ニシテ二万二千六百二十七噸ナリシカ昨年ニ至
テ六十四艘ト二万九千〇四噸ニ増加シタリ

昨年間法朗西船隻ノ出入ハ八艘ニシテ二千四
百四十八噸ナリシヲ以テ前年ヨリ増加スルヲ

三艘ト九百七十四噸ナリ
千八百七十五年間日耳曼船隻ノ出入ハ十七艘
ニシテ五千百五十噸ナリシカ千八百七十六年ニ
至テ十五艘ト四千六百三十六噸ニ迄減却シタ
ルカ故ニ其減差ハ二艘ト五百十四噸ナ
リ
昨年ニ於テ魯西亞汽船ノ出入セル者ハ總テ二
十艘ナリシカ故ニ之ヲ前年ニ比較スレハ十一
艘ト四千二百六十六噸ヲ増加スルニ至ル
兌換

昨年間倫敦へノ六ヶ月請取為換證券ノ相庭ハ
三司令十邊厄乃至四司令六邊厄四分一ノ間ニ昂
低セシカ其變換タルヤ偶然ノ投機ニ從フ者多
シトス是殊ニ長崎金融場ノ校隘ナルヤ恒ニ
上海ノ金融場ノ變換ニ随テ昂低スレハ也

一般ノ景況

憶ニ前條未、報告ヲ閱シ未ラハ閣下ハ應ニ本
港貿易ノ日ニ衰減ニ趣クヲ了スヘシ然リト虽
氏從來、實驗ニ據テ觀察ヲ下セハ政府カ全
國ノ精神ヲ將去シテ之ニ報スルニ健全ニシテ

巨額ノ經費ヲ要セサル改進ノ施治ヲ以テセザル以上ハ絶テ其貿易盛昌ナルヲ期ス可ラサル也況ニヤ日本ノ如キ充分ノ開明ニ至ラサル國ニ於テハ寧ロ人民ノ進捗ヲ妨クル無シテ能ク巨費ヲ要スルノ政府ヲ維持スルヲ得ル者アラサルニ於テヲヤ

余ハ曩ニ道路ノ事ニ関シテ屢々意見ヲ開陳シ本港貿易ノ盛昌ヲ計ルニハ必ス道路ノ設テカル可ラサルヲ述ヘ今ヤ殆ント餘地ナキヲ信ス余カ前回ノ報告書ニ陳述シタル時津ニ達スル

ノ道路ハ修築日々ニ緒ニ就クヲ以テ。若シ他日其功ヲ奏スルニ至ラハ右ニ轉スルノ直路タルヤ敢テ疑ヲ容ヘカラサル也將タ太村ハ貿易ノ要衝ニシテ本港盛衰ノ係ル所ナリ故ニ若シ前ノ道路ヲシテ「ア」丘ニ通シ續テ彼ノ大地ト疏通スルノ便ヲ得セシメハ其益タル蓋_レ尠_クニ非サルベシ然ルモ猶今日ニ至ル迄之ヲ企図スル無キハ豈慨歎スヘキノ至リニ非スヤ

夫道路ノ梗塞スルハ貿易ノ滋滯ヲ招クノ基タルヤ_{固ヨリ}疑フヘカラスト雖_レ未_タ以テ今日ノ衰頽ニ

至ルノ實因トハ為ス可ラサル也之ヲ要スルニ其然
ル所以ノ者ハ前ニ陳述スルカ如ク唯々中央政
府ニ於テ人民ノ資金ヲ徴収スルノ夥多
ナル為メニ國內ノ貧窶ヲ招致シタルニ依ル
ノミ

修船場

余カ曾テ進呈シタル報告書(即チ千八百七十四年
ノ報告書)ニ於テ日本政府カ長^サ四百六十一「ヒート」
幅八十九「ヒート」水ノ深^サ二十八「ヒート」ナル修船場
ノ築造ニ著手セルヲ述ヘタリシカ其工事ノ

昨年間ニ進捗スルヤ殊ニ盛ナリ故ニ若シ英國
ニ注文セル「カイツソニ」ノ速ニ到着スル有ラハ千
八百七十七年ノ終ニ於テハ必ス竣功スヘシト
云フ

朝鮮

日本朝鮮ノ兩國間ニ修好ノ約ヲ締スルヤ未タ
數閱月ニ至ラサルニ長崎ヨリ對^馬島ニ寄航シ續
テ釜山浦ニ達スルノ定期郵船ヲ發遣シタリシ
カ其航海日數ハ十二日ニシテ一週シ其薩摩ノ
騷亂ノ為メニ之ヲ廢絶スルノ前ニハ僅ニ三四

ノ航行ヲ為セリ

近頃朝鮮ヨリ領収スル所ノ報道ニ據ルニ其國
土タル敢テ外人ヲ誘致スルニ足ルヘキ者ナク
ハ日々ニ飢餓ニ逼迫セリト云ヘリ蓋曩ニ汽船ノ
朝鮮ニ向テ航行スルヤ其船内ニ搭載セル者ハ悉
米穀ナルノミ是他ナシ今ヤ朝鮮人カ交換スル所
ノ者ハ唯此一區ニ止レハ也

彼ノ汽船ノ朝鮮ニ航行スルヲ止ルノ前ニ方テ
ヤ長崎、高麗等ハ將來ノ貿易ニ関シテ少シク
鼓舞セラレ、所ナキニ非スト雖凡憶ニ其事々

ル未々以テ兩國間ノ貿易ヲ他日ニ盛大ナラシム
ルニ足ラサルヘキ也

朝鮮ヨリ輸入スル貨物ハ煎海嵐、昆布、牡丹皮、鷲
毛、麋、鱉、サシニ、乾鮑、皮革及ヒ獸骨等ニシテ其
朝鮮へ輸出スル者ハ米穀、洎芙蓉、藍、金巾及ヒ漆料
等也

領事

マルカス、フラロース

ハリ、パークス公閣下

金屬類

熟錢

鑄品

一、
付

四

〇〇

八、
八八四

三五、
五三六

一、
四五五

伏園畧留入負共高坪泰〔第六〕

準

出

備

入

備出入殊共準殊泰〔第五〕

八、
二〇六

八、
六〇四

五、
四〇一

三、
二五八

千八百七十
六年間 英國及他ノ諸國ヨリ輸入スル物品表(第二)

品名	時價	数量	價
綿布類	弗		弗
生糸晒金巾	四十碼 二付	一、〇七六、四三一	五、一、一二六
添金巾	同	六八、七二五	四、一〇二
緋金巾	廿四碼 二付	七九、一七六	六、二六八
更紗	同	八二、四九一	三、四三七
小巾金巾	同	五一、六〇〇	三、四四〇
寒冷紗	十二碼 二付	四二、七二四	三、五六〇
天鵝絨	廿六碼 二付	七五、〇九九	一六、六八八
帆布	廿八碼 二付	二、九七九	七、四四
ドリルス	二付	一〇〇、〇〇〇	七、六五〇
織糸	一付 二付	二四〇	七、二〇〇
雜類	一碼 二付	一四、〇八九	二、八一七
通計			一〇七、七一五
毛布類			
吳呂	六十碼 二付	三、一四〇	九六〇
羅脊板	三十碼 二付	八、六四六	二、四四八
縮吳呂	四十碼 二付	二二、六一〇	三、三九〇
アラ子ル	一碼 二付	八三〇	二四九
ブランケット			三、二九三
羅紗	一碼 二付	三、一二〇	五、六一六
雜類	同	二二、二六二	五、五六五
通計			二一、五二一
毛綿布類			
金屬類	一碼 二付	七九、〇七三	二九、七六八
熟錢	一付 二付	八、八八四	三五、五三六
錢器			一、四五五

甘草				十八三二
朱				一、七二〇
天蠶絲				六、九四四
豆類				一、〇二〇
支那藥種				一四、八六九
同繻子				三、八五五
同絹布				二、九四三
同粗毛布				二、六三三
綿花	二、 付	一六〇		三六四、九二八
赤砂糖	同	三八〇		五一、一八九
白砂糖	同	六二五		四三、三五六
氷砂糖	同	九五〇		八、五四〇
蠶甲				五、四九一
雜類				八九、一四四
通計				六〇九、八〇一

外國輸 入 要 計 略 表

綿布類	一〇七、七一五 弗
毛布類	二一、五二一 弗
毛綿布類	一九、七六八 弗
金屬類	四一、九一二 弗
外國雜貨	一九〇、〇五二 弗
東洋雜貨	六〇九、八四一 弗
通計	九九〇、八〇九 弗

日本開港場ヨリ輸入スル物品表

品名	時價	数量	價直
綿布類	四十碼 二付 一九	三七、八八二	一、七九九
生金巾	四十碼 二付 一九〇	三六、四〇〇	一、七二九
緋金巾	同 一九〇		一、九〇七
唐棧	十二碼 二付 二五〇	九、一五六	一、一八四
天鷲絨	廿六碼 二付 八〇〇	五、三五七	一、一八四
綿縫糸	一、ロクシ 二付 三六〇〇	四六	二、五九六
雜類			二、三五一
通計			一〇、五四六
毛布類			五、六四六
毛綿布類	一碼 二付 二五		四、二九三
金屋類			七、一四四
敷鏡	一、ロクシ 三付 四〇〇	一、七八六	三、四七八
塊鏡	同 二七五	一、二六五	二、五五〇
板鏡	同 一〇〇〇	二五五	一、六九七
雜類			一四、八六九
通計			四、六五一
外國雜貨			一、二三四
酒類			一、九〇四
食料			一、五四四
衣服			一、九三八
麥粉	一、ロクシ 三付 五〇〇	三〇九	四、〇〇〇
摺附木			四、〇一八
石炭油			六、三八八
漆灰			二五、六七八
雜類			
通計			

弗

千八百七十六年間 英國及他ノ諸國へ輸出スル物品表(第二)

品名	時價	数量	價直
上製茶	一ロクル 二付 一五〇〇	一三、八三五	二〇七、九七五
下製茶	同 五〇〇	八、二一一	四一、〇五五
粉茶	同 四五〇	二、〇九五	九、四二七
通計			二五八、四五七
錠銅	一ロクル 二付 二三〇〇	三五	八〇五
烟草	同 八二五	三、四五〇	二八、四六二
水蠟	同 八二五	四、五八三	三七、八〇九
樟腦	同 一四〇〇	四、二〇三	五八、八四二
石炭	一噸 三付 五〇〇	一五〇、八四一	七五四、二〇五
〔乾魚類〕			
乾鮑	一ロクル 二付 三〇〇〇	七七二	二三、一六〇
乾海老	同 二二〇〇	二三九	五、二五八
鱈	同 三五〇〇	一、三六二	一二、八四六
煎海鼠	同 一六〇〇	一一、一〇二	一七七、六三二
貝柱			七、〇〇一
通計			二七四、五六七
米穀	一ロクル 二付 一六〇	二八、四〇三	四五、四四四
〔雜貨〕			
寒天	一ロクル 三付 二九〇〇	二九八	八、六四二
椎茸	同 三七〇〇	三、〇五二	一一二、九二四
材木			四二、七五四
人參	同 一〇〇〇	六九	六、九〇〇
漆器			四五五五
硯	同 二二〇	九、五三七	二〇、九八一
書寫用紙			二、三八八

十六年
 英國及外
 諸國之輸出
 品目表(第二)

下等紙			二〇、〇八一
磁器			一四、四七九
昆布	二付 「ロケル」	二五〇	一〇、四三五
鮑貝			一、七三七
藥種			一、二三一
食料			三、三六四
蜜蠟			一、七四四
桂皮			一、八九〇
塩			一、〇八四
木炭	同	三三	四、二〇六
玩物			一、七一六
毛布類			一、七三三
雜類			一四六、六二三
通計			四一〇、四六七

外國輸出要計畧表

茶		二五八、五五七弗
銅		八〇、五弗
烟草		二八、四六二弗
蠟		三七、八〇九弗
樟腦		五八、八四二弗
石炭		七五四、二〇五弗
乾魚		二七四、五六七弗
米穀		四五、四四四弗
雜貨		四一〇、四六七弗
通計		一、八六九、〇五八弗

不事

日本開港、再輸出スル物品表

品名	時價	数量	價直
綿布類	串		串
生金巾	四十碼 二付 一九〇	二八、四三九	一、三四九
緋金巾	同 一九〇	七、九六一	三、七八
天鵞絨	廿六碼 二付 八〇〇	一、九六〇	四、三二
ムズリン			一、〇〇〇
綿織糸			一、五四〇
雜類			一、〇八九
通計			五、七八八
〔毛布類〕			
羅紗	廿碼 二付 一八〇	四、五三九	二、七一
雜類			三、〇九七
通計			三、三六八
毛綿布類	一碼 二付 二五	八、六八九	二、一七二
金屬類			三、一〇七
〔外國雜貨〕			
食料			一、三五七
茶鉛			一、四一〇
製藥			五、三三二
縮カムレツツ			三、九二〇
雜類			六、八七〇
通計			一八、八七九
〔東洋雜貨〕			
砂糖			二一、三五五
支那絹			二七、二六四
豆類			一、五七五
紅花			一、六一〇
雜貨			五、四九七
通計			五七、三〇一

二〇、〇八一

品名	数量	貨直
日本開港場へ再輸出スル品名表		

日本開港場へ再輸出要計畧表

糸布類	五、七八八 帛
毛布類	三、三六八 帛
毛綿布類	二、一七二 帛
金屬類	三、一〇七 帛
外國雜貨	一八、八七九 帛
東洋雜貨	五七、三〇一 帛
通計	九〇、六一五 帛
英國及他ノ諸國へ輸出	一、八六九、五八 帛
日本開港場へ再輸出	九〇、六一五 帛
通計	一、九五九、六七三 帛

長崎港輸入出貨幣〔第三〕

輸入	輸出
外國ヨリ輸入スル者	外國へ輸出スル者
日本開港場ヨリ輸入スル者	日本開港場へ輸出スル者
通計	通計
二四四、五四七 帛	二四一、八五一 帛
一七九、三六三 帛	二七四、三八二 帛
四二二、九一〇 帛	五一六、二三三 帛

日本關再輸出要信畧表

外國船隻出入表〔第四〕

國名	入港		出港	
	艘數	噸數	艘數	噸數
英吉利	一三二	八〇、二四三	一三〇	八〇、七七八
法朗西	八	二、四四八	八	二、四四八
亞墨利加	六四	二九、〇〇四	六四	二九、〇〇四
同郵船	二三	四八、三〇〇	二三	四八、三〇〇
日耳曼	一五	四、六三六	一五	四、六三六
魯西亞	二〇	七、一〇六	二〇	七、一〇六
丁抹	六	三、三四八	六	三、三四八
諾威	一	四七九	一	四七九
瓜哇	一	四七三	一	四七三
支那	七	四、二〇二	七	四、二〇二
通計	二七七	一八〇、二四三	二七五	一八〇、七八一

輸出入稅及船稅表〔第五〕

船稅	輸出入稅	
	輸出稅	輸入稅
通計	八六、六〇四弗	三二、五八九弗
船稅	八、二〇七弗	五四、〇一五弗

外國居留人負并高社表〔第六〕

國名	人負		高社	
	人負	高社	人負	高社
英吉利	一三四	一三四	一三四	一三四
法朗西	一四	一四	一四	一四
亞墨利加	三一	三一	三一	三一
丁抹	一四	一四	一四	一四
魯西亞	五	五	五	五
澳斯地	七	七	七	七
瑞典	三	三	三	三
諾威	一	一	一	一
荷蘭	四	四	四	四
葡萄牙	五	五	五	五
支那	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇
通計	六八九	六八九	六八九	六八九

國名	英吉保	蘇門西	亞墨保	阿哇	日丹曼	魯西	丁林	諸	麻	文	麻	蘇
進	一三二	八	六四	二三	一五	二〇	六	一	一	六	一	二六
出	八〇二四三	二四四八	二五〇〇四	四八三〇〇	四六三六	六一〇六	三三四八	四六	四六三	四二〇二	四二〇二	一八〇二四三
淨	一三〇	八	六四	二三	一五	二〇	六	一	一	六	一	二六
淨	八〇二四八	二四四八	二五〇〇四	四八三〇〇	四六三六	六一〇六	三三四八	四六	四六三	四二〇二	四二〇二	一八〇二八一

本國進出表〔第四〕

